

令和2年度

まちづくり推進部 増田地域局の方針書

組織名	まちづくり推進部 増田地域局
所属長名	阿部 隆雄

1. 組織の使命(ありたい姿)

地域のみなさんが知恵を持ちより「人と地域が燦くまち」として、愛着を持てる地域づくりを進めます。

2. 組織の抱える課題(現状)

- ・地域課題の解決に向けて地域全ての地区交流センターが、取り組みを共有し、管理運営できるよう支援する必要があります。
- ・歴史と文化を活かしたまちづくりのため、関係団体とのさらなる連携を図り、来街者のイメージ向上に努める必要があります。
- ・市民から親しまれる地域局として、市民に寄り添った対応、案内等の取り組みについて、職員の情報共有を図る必要があります。

3. 今年度の『スローガン』

歴史と文化が息づく、明るく元気な地域づくり

4. 今年度の方針

- ・市民が主役の持続可能な魅力ある地域づくり活動の推進
- ・市民に親しまれる安全安心な施設の適正な維持管理
- ・市民に愛着と誇りの持てるまちづくりの推進

5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	市民が主役の持続可能な魅力ある地域づくり活動の推進
	取組内容	①地区交流センターの取り組みや管理運営などを支援し、地域づくり活動を推進する ②地域活動の取り組みや庁内活動の推進に向け、わかりやすい説明とサポートに努める
(2)	実現したい成果	市民に親しまれる安全安心な施設の適正な維持管理
	取組内容	①市民にスムーズで分かりやすい対応と標示、地域のみなさんが利用しやすい庁舎を目指します ②庁舎を利用する市民の安全と支障の少ない施設改修のため、適正な施工管理を行います ③市民に寄り添った窓口対応の向上と、健康寿命の延伸に向けた取り組みを行います
(3)	実現したい成果	市民に愛着と誇りの持てるまちづくりの推進
	取組内容	①市民が町並みを地域の宝として誇りに思い、まんが美術館と連携して、まちづくりに活かせるよう努めます ②市民のみなさんが地域の歴史や文化に親しめる機会や情報発信を行います

6. 方針に対する年度上期(4月～9月)の取組状況

- (1)市民が主役の持続可能な魅力ある地域づくり活動の推進
 - ・毎月の各地区交流センター担当者会議やセンター長会議を定期的で開催するなど、運営支援、活動推進などへ関わっている。
 - ・今年度第1回の合同連絡会を開催し、各センターの実施計画等の共有化を図っている。
- (2)市民に親しまれる安全安心な施設の適正な維持管理
 - ・来庁者の多い入浴券交付などにおいて特設窓口を開設し対応した。来庁者にはエレベーター利用の案内と職員からの声掛けに努め、各窓口を番号表示し、戸惑うことのないような対応を徹底した。
- (3)市民に愛着と誇りの持てるまちづくりの推進
 - ・関係団体との会議(1回/2週)や随時の打合せ等により、地域の文化資産のさらなる有効活用を推進している。

7. 年度下期(10月～3月)に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

- (1)市民が主役の持続可能な魅力ある地域づくり活動の推進
 - ・担当者会議やセンター長会議、合同連絡会の開催等により、各センターの情報の共有化を図り、市民が主役の魅力ある地域づくり活動を推進する。
- (2)市民に親しまれる安全安心な施設の適正な維持管理
 - ・来庁者への明瞭で親切な声掛けを引き続き実施するため、課内会議を活用し、円滑な職員間の協力体制を強化する。また、庁舎補修工事に伴う、来庁者の誘導等、安全確保に努める。
- (3)市民に愛着と誇りの持てるまちづくりの推進
 - ・関係団体との会議や随時の打合せ等により、地域の文化資源のさらなる有効活用を推進する。

8. 総括(取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】)

- (1)市民が主役の持続可能な魅力ある地域づくり活動の推進
 - ・4地区交流センターの担当者・センター長会議や合同連絡会の開催等により、各地区交流センターの情報共有化が図られ、少しずつではあるが、市民が主役の魅力ある地域づくり活動を推進できた。コロナ禍により活動の自粛もある中、工夫により開催に繋がった活動もみられた。
- (2)市民に親しまれる安全安心な施設の適正な維持管理
 - ・来庁者に対する親切な声掛けにより、2階執務スペースへの誘導や今年度から申告会場を庁舎3階に変更したが、エレベーターの利用も含め、円滑に誘導することができた。また、庁舎補修工事に伴う、来庁者の安全確保も図ることができた。次年度の庁舎補修工事においても、庁内各課の連携により来庁者への支障が無く、安全安心な工事管理の確保に努めたい。
- (3)市民に愛着と誇りの持てるまちづくりの推進
 - ・毎月1回、まちなみ・まんが美術館など関係団体との情報交換により、地域の文化資源の有効活用を推進できた。コロナ禍の影響により、イベントや学校と連携した行事も十分な協議を進めていたが、中止せざるをえなかった。